

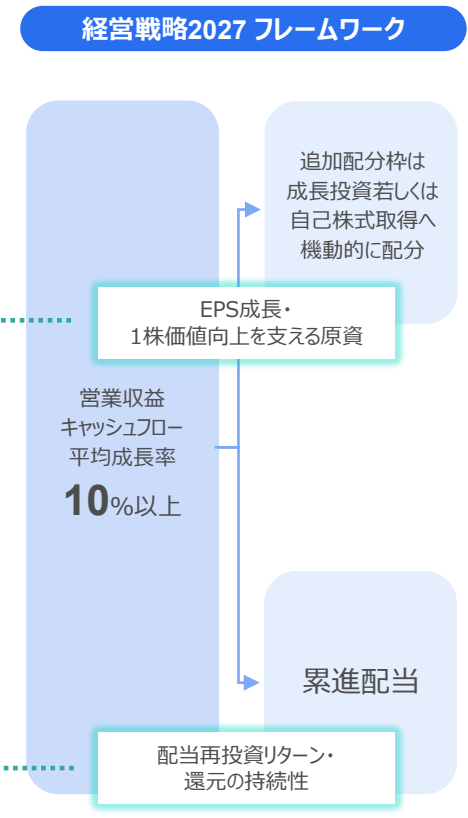
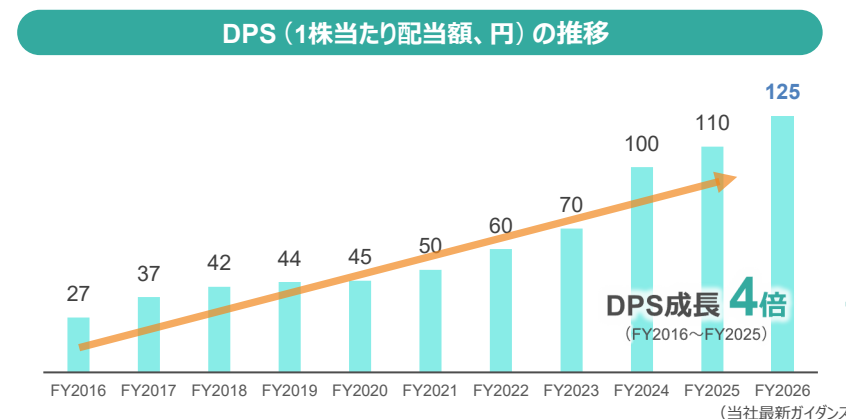
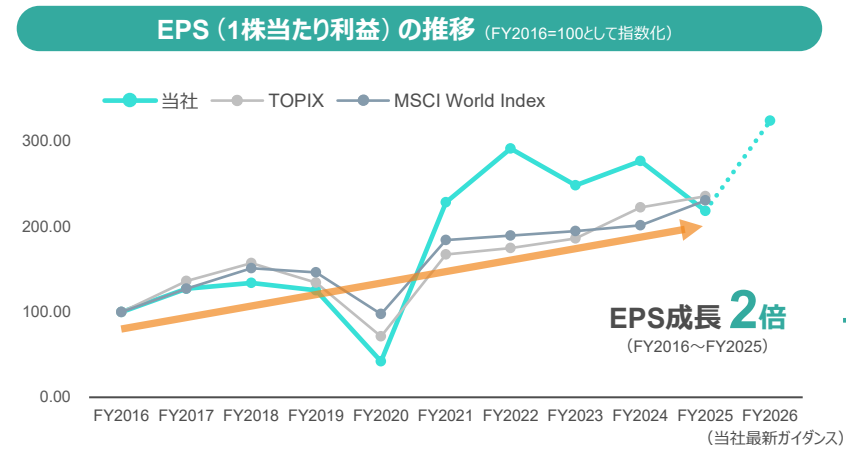
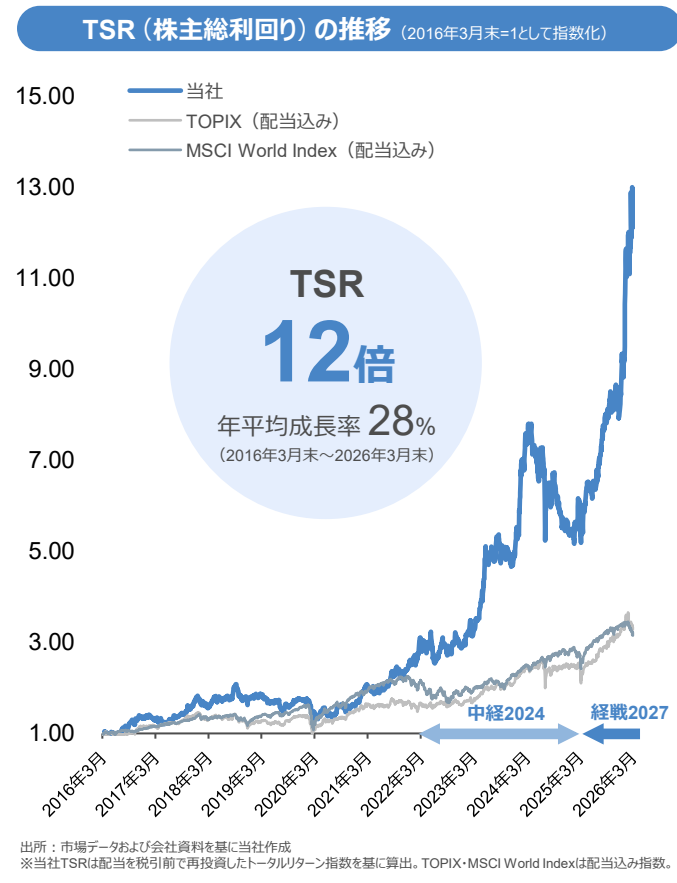
MCSV Creation Forum
Investor Day 2026

**3 成長期待の向上・資本コストの
低減に向けた取り組み**

常務執行役員 CSEO 兼 金融アライアンス担当
小林 健司

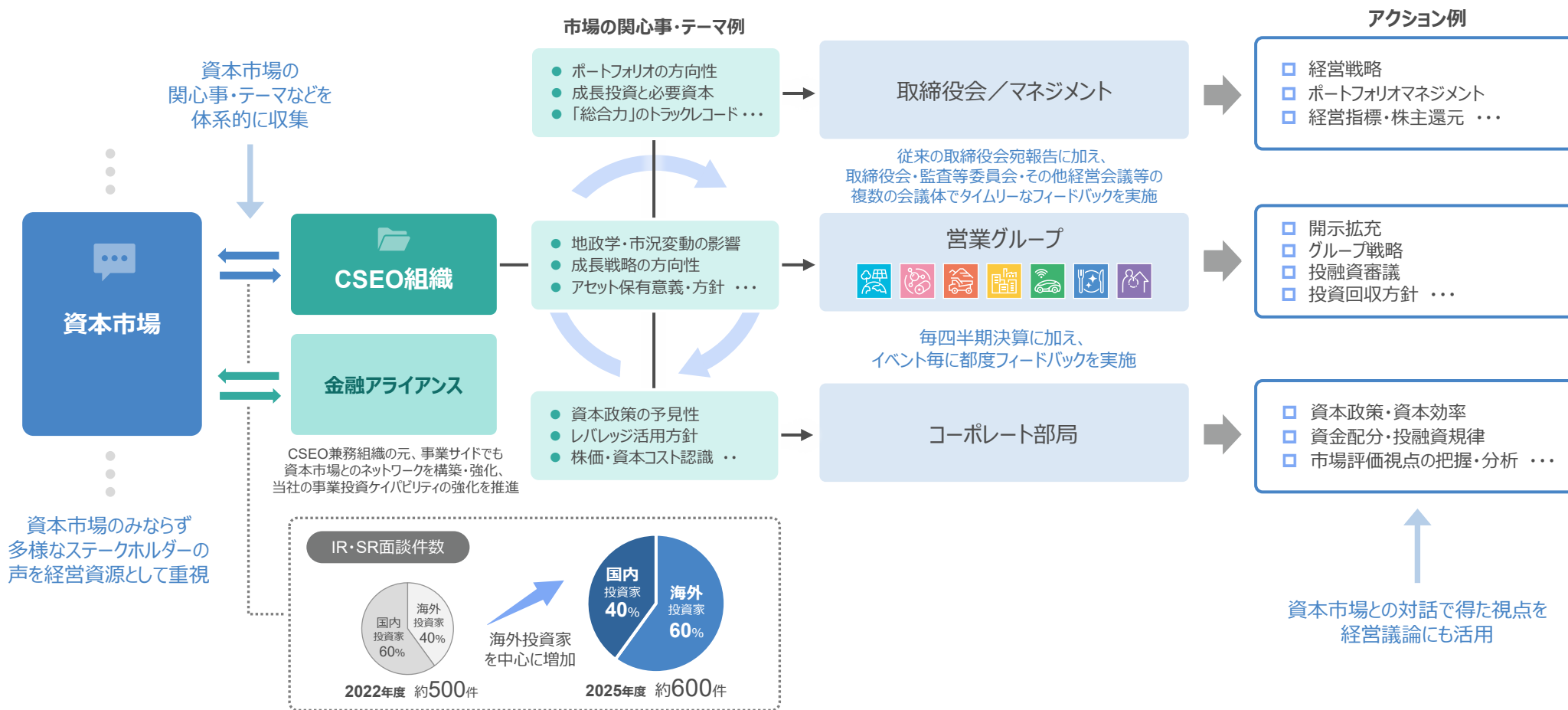
1. 企業価値・株主価値向上に向けた取り組み

- EPSの持続的な成長、DPSの累進的な成長に支えられ、当社のTSRは過去10年で見ると約12倍に増加
- 経営戦略2027の取り組みにより、TSRを構成するEPSやDPSの持続的な成長継続に加え、当社ならではの「総合力」の発揮を通じた更なる成長期待の醸成に向けた取り組みも加速させていく



2. 資本市場との対話を通じた経営の深化

- 資本市場との対話で得た論点は、取締役会、マネジメント、各グループへ継続的かつ適時にフィードバック
- 第三者視点を成長戦略に取り組み、経営議論への活用・企業価値向上の実現を目指す



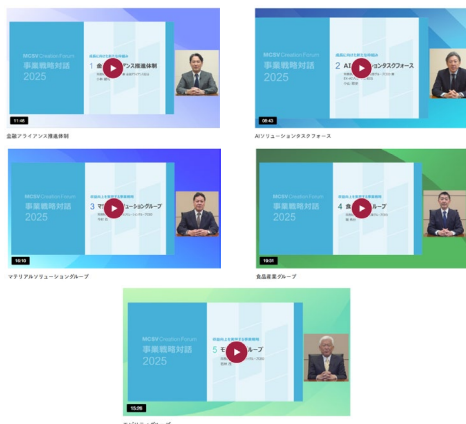
3. 資本コスト低減に向けたビジビリティ向上の取り組み例

- 資本市場の声を受け、当社戦略・利益成長の解像度向上に取り組んでいる

資本市場の声

経営戦略2027や中長期におけるセグメント毎の戦略を詳細に知りたい

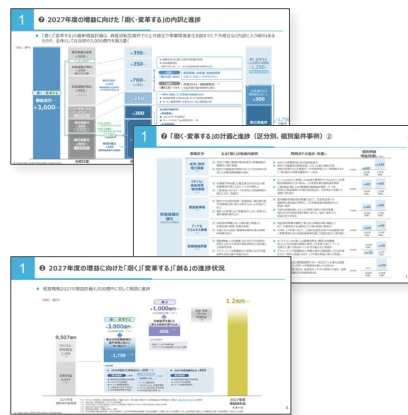
IRイベントを通じ、セグメント毎の戦略を定量・定性両面で説明



(2025年6月事業戦略対話)

「磨く・変革する」「創る」による取組進捗や計画の解像度を上げてほしい

計画内訳、主要な事業毎の取組内容・進捗状況などを開示



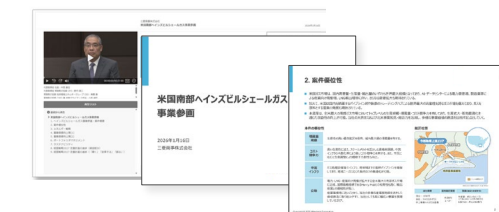
(2025年度決算説明会資料)

実行した投資内容について利益貢献開始時期や貢献額について知りたい

主要案件の投資額・利益貢献時期・規模等をリスト開示
(個別に案件説明会も実施)

案件名	投資額	利益貢献開始時期	利益貢献規模
2025年度第2四半期決算発表後からの主な公開案件			
米国 LNG	LNG投資額1.1-1.2億	2024年度	LNG投資額累計: +2023/5/26
米産	Genetechに投資して生薬生産施設の整備	2024年度	100億円(10/2025年度末)

(2025年度決算説明会資料)



(米国南部ヘインズビルシェールガス事業参画 説明会)

GHG削減に対する考え、各Scopeの削減量や削減貢献量、財務影響をより詳しく知りたい

施策プロセス及び分析結果の開示
(Scope1・2の開示に加え、3全カテゴリー、削減貢献量、気候関連のリスク・機会の財務的影響の開示などを実施)



(サステナビリティ・レポート2025)

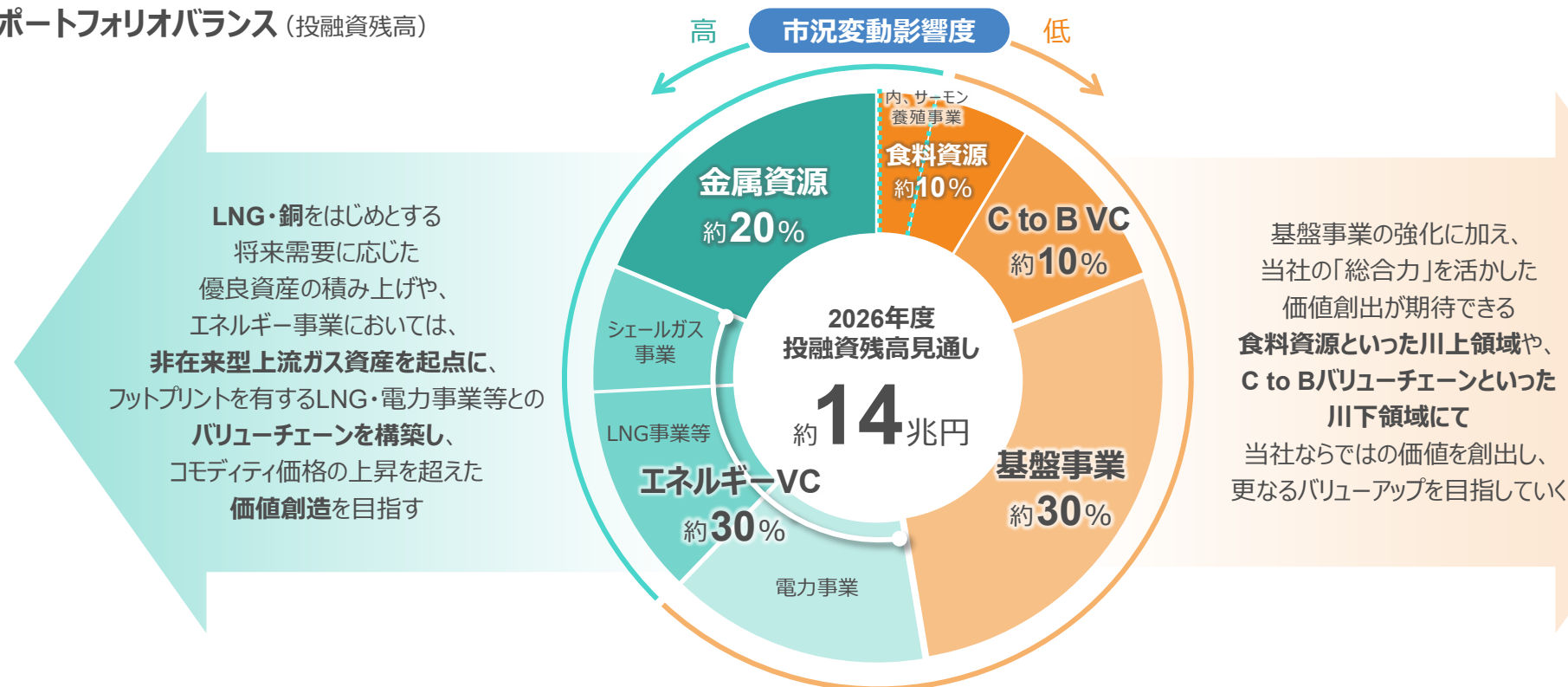


(サステナビリティウェブサイト)

4. 当社のポートフォリオ構成

- 循環型成長により変容する当社のポートフォリオ構成を資本市場の皆様に分かりやすくお伝えする開示を継続していく

ポートフォリオバランス (投融資残高)

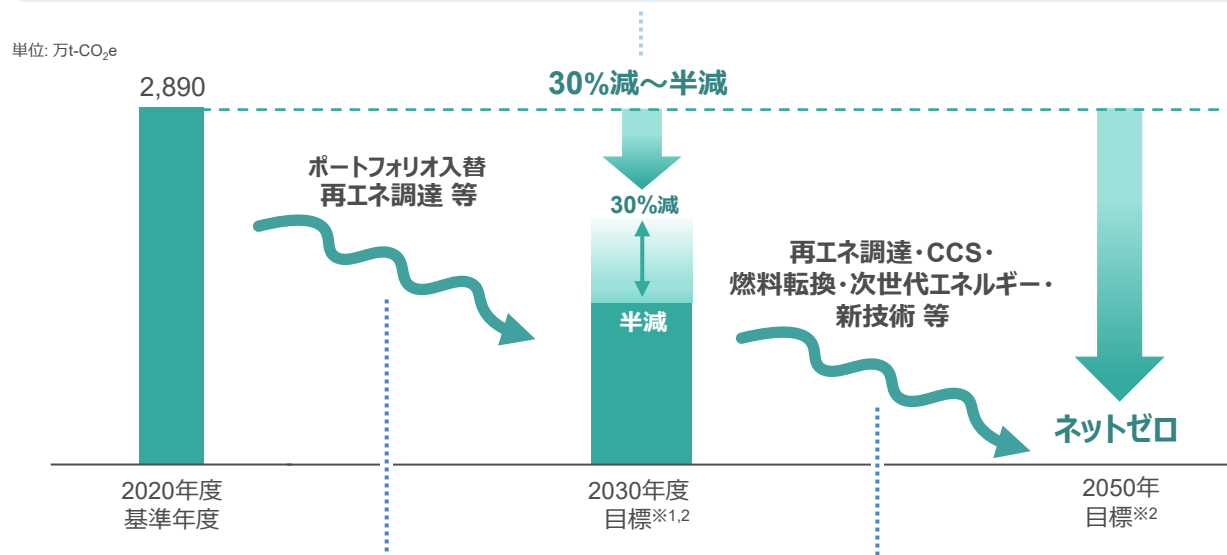


市況変動の影響を受けづらい事業領域において、当社ならではの価値創造により収益水準を底上げしつつ、金属資源やエネルギー分野では下方耐性を強化しつつ市況のアップサイドを取り込み、ポートフォリオを強靱化していく

5. カーボンニュートラル社会への実現に向けた取り組み

- 当社は本年5月に『カーボンニュートラル社会へのロードマップ2.0』を公表。「安定供給」「価格受容性」「低・脱炭素」という3つのエネルギー課題に正面から向き合い、「責任あるエネルギー・トランスフォーメーション」を実践していく
- 自社の排出削減と社会への貢献を一体として経営戦略を推進し、2050年ネットゼロに向けた進捗を促進していく

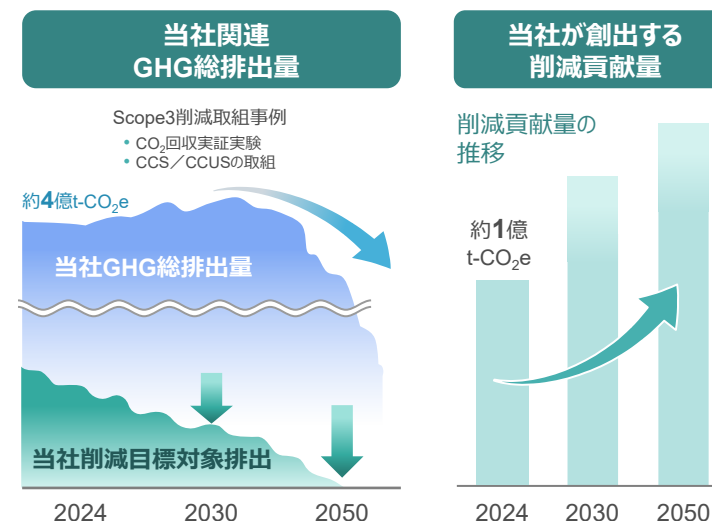
- 責任あるEXの実践に向け、安定供給や低・脱炭素といった地域ごとの課題に対して最適なEXソリューションを提供することで、エネルギーの供給基盤強化と社会の持続可能な発展に貢献し、さらなる成長と企業価値向上を目指す
- 様々なシナリオに対応することを想定し、2030年度のGHG削減排出量目標を「30%減から半減」へ改定（2020年度比）



- 気候変動の影響度が高いグリーン/トランスフォーム事業については、脱炭素採算影響評価やシナリオ分析を実施
- 座礁資産化リスクを回避するため、特に重要性の高いトランスフォーム事業を対象とし、リスクを評価
- 個別の案件審査に加え、全社の事業戦略会議では、GHG削減目標を踏まえた討議を行い、戦略・投資計画を策定

※1 2030年度目標のバウンダリーは基準年度を踏襲。GHG排出量削減目標に係る削減計画や施策は、技術発展・経済性・政策/制度支援などの進捗に応じて柔軟に変更。なお、バウンダリーには、Scope1・2およびScope3の一部を含む。
 ※2 削減努力を進めた上でも削減目標未達の場合については、炭素除去を含めた国際的に認められる方法（カーボンクレジット等）でオフセットすることを検討する。

- 当社排出量削減目標の達成に加え、バリューチェーン全体の排出（Scope3）削減も重要であり、Scope3排出量のモニタリング・開示を実施



- 社会全体の低・脱炭素を測る指標として、削減貢献量を算定
- 銅事業をはじめとした、多様なEX戦略の取り組みを通じ、脱炭素社会への移行に貢献していく